

教員の負担軽減に向けて

平成28年3月
札幌市教育委員会

目 次

1	はじめに	1
2	教員の負担軽減に向けた取組	
	☆主に教育委員会が中心となる取組	3
	☆主に園・学校が中心となる取組	6
3	園・学校に実施したヒアリング内容	12
4	園・学校における業務上の工夫等	14
5	園・学校における取組実践事例	17

参考

6 教員の勤務実態調査結果

(平成 27 年 2 月実施)

はじめに

現在、子どもたちを取巻く状況や保護者や社会からの要望が多様化・複雑化する中で、教員の職務は多岐にわたり、時間的・精神的負担が増大しています。また、教育が直面する課題も多種多様であり、それに伴い教員にも様々な対応が求められています。

国際的なOECDの調査においても、日本の教員の1週間当たりの勤務時間は参加国中最長である等の結果が出ており、教員の多忙化が指摘されている現状です。

札幌市教育委員会ではこうした現状を把握するため、平成27年2月に教員の勤務実態調査を行いました。その結果によると、全校種・全職種の時間外勤務等の月平均時間は65.7時間であり、平成19年の調査時と比べて6時間減となりました。

現在の教育振興基本計画においても、「教職員が、個々の教育指導の意識や技術などの資質・能力を高めるとともに、それを十分に発揮し、子ども一人一人に寄り添い、健やかな成長を支えていけるような取組」が求められております。

教員がやりがいを持って働くことができ、子どもたちとしっかりと向き合う時間を確保していくことが必要であり、教員の負担・負担感をさらに軽減していかなければなりません。

今回、教育委員会では調査結果の分析に加え、幼稚園・各校種の学校に直接出向き、各学校の現状を把握するとともに、実際に行われている様々な取組のヒアリングを行いました。

そのヒアリングの結果なども踏まえ、今後、教員の負担・負担感の軽減に向け教育委員会と学校が取り組んでいく必要がある事柄と学校の実践事例をまとめました。

各学校におかれましては、既に行事や会議の精選、業務の効率化など、それぞれの実態に応じた取組を進めていただいているところですが、教員の負担・負担感につながる要因は学校ごとに異なっており、負担軽減を図るためには、教員全員が課題を共有し、学校全体で取り組んでいくことが重要だと考えております。

各学校においては、この冊子を参考にして一層の業務の効率化と負担軽減に向けた具体的な取組を進めるようお願いいたします。

教育委員会としても、教員が健康に働くことができ、子どもの笑顔があふれる学校づくりを支援する取組を一層充実させてまいります。

